

1. 環境チャレンジ目標2030



環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

目標年度：2030年度 2030年に向けた環境チャレンジ目標を策定し、取り組みを推進しています。

チャレンジ1 事業活動におけるCO₂排出量を半減！

2050年度には、90%削減を目指す！

重点施策

- 設備更新／車両更新
- 省エネチューニング
- 太陽光自家発電・自家消費
- 電気自動車・トラックの導入
- コープでんきへの切替

チャレンジ2 事業活動における食品廃棄物を半減！

重点施策

- 店舗廃棄重量削減
- フードバンク等への食品提供拡大
- 食品リサイクル率向上

チャレンジ3 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！

重点施策

- 環境配慮型のエシカルな商品・サービスの開発・供給推進
- 地産地消の推進
- 容器包装の削減

チャレンジ4 組合員とともにエシカル消費を拡大！

重点施策

- エシカルな商品、エシカルな暮らしのあり方に関する学習・広報の推進
- 組合員とともにエシカル消費を拡大

2. 環境チャレンジ目標2030にもとづく2018年度計画

<チャレンジ1> CO₂排出量を半減！

- 1) 太陽光の自家発電・自家消費を、新たに2事業所で導入。
- 2) コープでんきの供給事業所の拡大(2017年度／88事業所→2018年度／約200事業所)。
- 3) 省エネチューニングの対象事業所を拡大(2017年度／18事業所→2018年度／58事業所)。

<チャレンジ2> 食品廃棄物を半減！

- 1) 事業における食品廃棄の実態把握。
- 2) 店舗で食品ロス削減を目的にした「もったいないプロジェクト」をスタート。
- 3) 神戸市と連携した取り組みを推進。店舗での廃棄ロス削減に向けて、実証実験を実施。

<チャレンジ3> 環境に配慮したエシカルな商品やサービスの開発・供給推進！

- 1) 6月と10月のエシカル強化月間にエシカルな商品の企画・供給促進(店舗・宅配)。
- 2) 「コープでんき」をエシカルな商品として位置づけ、電源構成や地産地消などの特長を明確にして訴求。また省エネ・節電などのエシカルな行動につながる新規サービスの開発を進める。
- 3) 職員研修を通じて、エシカルな商品や取り組みを学び、組織全体での供給促進につなげる。

<チャレンジ4> 組合員とともにエシカル消費を拡大！

- 1) 組合員自身が、エシカルな行動を楽しみながら自己診断できる取り組み「エシカルラリー」を試験的に展開。
- 2) エシカル商品としての「コープでんき」の学習と、良さを伝え合うことによる加入促進。
- 3) 家庭における食品ロス削減に向け、フードドライブ集中取り組みを全店舗に拡大。
- 4) 容器包装の削減に向けた取り組みとしてのマイバッグ運動の推進(大阪北地区は2018年度集中取り組み)。

CO₂削減の取り組み



<http://eco.coop-kobe.net/ecolife/>

※URLをクリックすると関連情報が表示されます

単位：t-CO₂

	合計	店舗	工場	宅配	物流	本部	子会社
2013年度	129,899	68,898	16,309	11,573	17,172	3,087	12,860
2016年度	116,721	64,100	15,318	11,753	9,070	3,526	12,954
A.設備・車両更新	-14,007	-7,826	-1,384	-2,254	-1,412	-204	-927
B.省エネチューニング	-3,869	-2,314	-655	-209	-82	-117	-492
C.太陽光自家発電・自家消費	-1,590	-795	-127	-418	0	-84	-167
D.電気自動車・トラックの導入	-89	-17	0	-38	0	-17	-17
E.コープでんきへの切替	-31,889	-23,186	-611	-1,670	-1,803	-1,018	-3,603
2030年度計画	65,276	29,962	12,541	7,165	5,773	2,087	7,748
2030年度計画/2013年度	50.3%	43.5%	76.9%	61.9%	33.6%	67.6%	60.3%

太陽光発電の取り組み



<http://eco.coop-kobe.net/generation/>

※URLをクリックすると関連情報が表示されます

コープこうべグループが進める太陽光発電所一覧

	太陽光発電所	所在地	運転開始	出力規模 (kW)	年間予想発電量 (kWh)	世帯数換算(※) (世帯)
1	鳴尾浜	兵庫県西宮市	2013年 9月	825.3	833,770	231
2	稲美	兵庫県加古郡稲美町	2013年 9月	150.9	154,350	43
3	北神戸	兵庫県神戸市北区	2013年11月	258.0	259,833	72
4	姫路東	兵庫県姫路市	2013年11月	309.6	311,141	86
5	氷上	兵庫県丹波市	2014年 3月	305.3	292,280	81
6	高槻	大阪府高槻市	2014年 6月	257.0	254,131	71
7	三木三津田	兵庫県三木市	2014年 9月	2,590.0	2,494,904	693
8	あこや学園	兵庫県尼崎市	2015年 6月	26.4	28,355	8
9	西播磨	兵庫県たつの市	2015年 6月	508.1	611,171	170
10	神吉	兵庫県加古川市	2015年 6月	50.8	57,802	16
11	魚住	兵庫県明石市	2016年 2月	360.6	370,990	103
12	須磨	兵庫県神戸市須磨区	2016年 3月	234.5	238,693	66
13	尼崎	兵庫県尼崎市	2016年 3月	217.0	220,880	61
14	丹波	兵庫県篠山市	2016年 3月	175.0	168,067	46
15	大王丹波	兵庫県丹波市	2016年 7月	501.6	535,679	148
16	箕面	大阪府茨木市	2016年 9月	178.5	179,485	49
17	淡路	兵庫県南淡路市	2016年12月	60.0	62,135	17
18	川西	兵庫県川西市	2017年 3月	50.0	48,226	13
19	西神戸	神戸市西区玉津町	2017年 6月	608.6	586,983	172
20	伊丹	兵庫県川西市久代	2017年 9月	241.3	234,251	65
	合計			7,908.5	7,943,126	2,211

(※)一般家庭の年間消費電力量を1世帯あたり3,600kWhとして算出

組合員からの回収量

(単位：kg)

回収品目	回収業態		2013	2014	2015	2016	2017
	店舗	宅配					
紙パック	○	○	359,413	329,933	324,458	320,420	307,783
飲料缶	○		325,131	293,795	281,140	258,441	261,338
発泡トレイ	○		203,645	187,959	183,913	171,359	161,132
ペットボトル	○		575,720	533,640	499,187	502,106	490,831
ペットボトルキャップ	○		-	-	-	28,195	28,388
透明トレイ・卵パック	○		109,606	108,686	113,275	116,975	121,804
卵パック		○	28,888	29,601	35,073	38,302	39,057
商品カタログ「めーむ」		○	5,085,350	5,429,221	6,315,724	6,614,308	7,054,323
商品配達用ポリ袋・帳票袋		○	80,879	80,724	87,650	83,767	102,018

使用済小型家電回収BOXの設置状況

コープこうべでは、行政の回収のしくみや要請に応じて、回収ボックスを設置しています。

行政区	回収開始	設置店舗名
神戸市	2014年 4月	コープリビング甲南
明石市	2012年11月	コープ西明石
	2017年10月	コープ大蔵谷
西宮市	2015年11月	コープ武庫川
	2015年11月	コープ北口食彩館
	2015年11月	コープ西宮東
	2017年 4月	コープ甲陽園
	2017年 4月	コープ西宮南
	2017年 4月	コープマリナパーク
	2017年 4月	コープ西宮北
高砂市	2016年10月	コープ高砂

※小型家電リサイクル法

使用済み小型家電に含まれる鉄やアルミ、レアメタルなどの貴重な資源の再資源化を目的とした「小型家電リサイクル法」に基づき、各自治体では使用済み小型家電の回収を進めています。回収した使用済み小型家電は、国の認定事業者によって回収・リサイクルされ、2020東京オリンピックのメダルに生まれ変わります。

※都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

2017年度

①リサイクル量		4,114.8t
店 舗	野菜・肉の加工くず堆肥化(コープ土づくりセンター)	608.8t
	肉の加工くず飼料化(外部委託)	24.2t
	魚アラの飼料化(外部委託)	373.0t
食品工場	バイオマス発電への投入	760.3t
	パン耳等の飼料化	183.0t
	おからの乾燥・飼料化	506.1t
	おからの乾燥(水分量)	1,569.5t
	廃食油の燃料・熱回収・飼料化	33.8t
製造くずの堆肥化(コープ土づくりセンター)		56.1t
②食品廃棄物の廃棄量		1,640.2t
(店 舗)		1,575.0t
(食品工場)		65.2t
リサイクル率 ①÷(①+②)		71.5%
(店 舗)		39.0%
(食品工場)		97.9%

1. コープ土づくりセンターでのリサイクルについて
神戸・三木・明石・芦屋・西宮市内の40店舗から野菜と肉の加工くずを、また食品工場から製造くず(めんなど)を回収しています。

回収した加工くずは、三木市にあるコープ土づくりセンターで、堆肥製造の原料として活用されています。

製造された堆肥は、土づくりセンターに隣接する(有)みずほ協同農園で使用され、収穫した農作物はコープこうべの店舗で供給されています。

2. 食品工場でのリサイクルについて

①食品廃棄物を分解し、その過程で発生するメタンガスを取り出し、工場内の燃料として活用しています。

②製造過程で発生する一部の製造くず(めんなど)を、堆肥化しています(コープ土づくりセンター)。

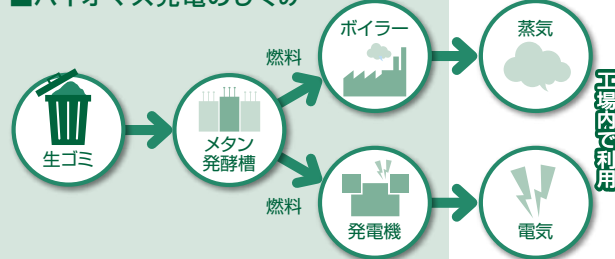
六甲アイランド食品工場のバイオマス発電

パンや豆腐などを製造する六甲アイランド食品工場では、メタン発酵を利用したバイオマス発電などにより、約97%の食品廃棄物をリサイクルしています。



バイオマス発電

■バイオマス発電のしくみ



コープ土づくりセンターの実績

年度		2013	2014	2015	2016	2017
食品残さ回収量(原料投入量)	トン	507	671	641	579	665
堆肥生産量	トン	249	293	226	234	141

※2017年度に、食品残さ回収量(原料投入量)の2015・2016年度の実績数値の修正を行いました。

環境学習／くらの見直し【エコファーム】

エコファーム利用者の推移

年度		2013	2014	2015	2016	2017
体験農園(貸し農園)区画数	区画	327	300	285	260	239
エコファーム講座参加者数(のべ)	人	276	274	201	209	219
マイファーム(ミニ農園オーナー制)参加家族数(のべ)	家族	1,190	1,124	1,120	910	688
視察学習訪問者数(のべ)	人	2,565	1,912	1,517	1,994	1,245
エコファームくらぶ(ボランティア)参加者数	人	94	36	68	65	59

1. マイバッグ運動の成果

		2013	2014	2015	2016	2017
持参率	%	86.5	86.7	87.0	86.9	86.8
節約枚数	枚	77,005,401	74,314,847	74,516,790	72,895,804	72,661,742
原油節約量(200ℓのドラム缶に換算)	本	7,277	7,023	7,041	6,889	6,867

2. レジ袋代金とエコシール寄付金の使途

(第1地区～第7地区)

2017年度に活用したレジ袋代金 37,948,107円 2017年に活用したレジ袋代金の内訳は、下記通りです。	
項目	金額
①コープの森・社家郷山(しゃげごうやま)において、多様な生き物を育む豊かな森づくりのための整備活動と、山とくらしのつながりの体験学習をすすめています。	7,339,057円
②エコファームや産地での体験学習を通して、食べ物の生産現場、生産する人、それを支える生産環境と、私たちのくらしとの関わりに気づく学習活動をすすめています。	3,709,194円
③地球温暖化防止に向けて、くらしの中でエネルギーを適切に選び、使うことのたいせつさに気づく学習活動をすすめています。	337,027円
④コープ甲子園口 壁面緑化作業の定期管理に活用しています。	363,960円
⑤容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当しています。	25,413,008円

※第1地区～第7地区では、レジ袋が必要な場合、1枚5円をお支払いいただいています。

(大阪北地区)

2017年度に活用したエコシールの寄付金 964,097円 2017年に活用したエコシール寄付金の内訳は、下記の通りです。	
項目	金額
環境分野「小・中学校にエコベンチ15台を寄贈」	429,300円
福祉分野「7カ所の福祉施設に10万円を上限に備品を寄贈」	534,797円

※大阪北地区では、マイバッグをお持ちいただいた方にエコシールをお渡しし、エコシール20枚につき、100円分を「環境分野と福祉分野への寄付金への積み立て」あるいは「お買い上げ金額からの値引き」のいずれかを選んでいただく取り組みを行ってきました。しかし、2018年度は順次レジ袋無料配布中止・有料化にともない、2018年9月末をもって、エコシールの使用(値引き・寄付)を終了予定です。

3. 行政や消費者団体とのレジ袋削減協定

	行政区名	締結年月日	三者協定締結日	他社	協 定 名
1	神戸市	2006年12月27日	2007年12月22日 (2011年12月22日更新)	●	レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
2	西脇市	2007年3月13日			マイバッグ運動の取り組みに関する協定
3	三木市	2007年3月29日	2009年1月16日 (2009年1月16日更新)	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
4	明石市	2007年5月22日	2011年11月25日	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
5	豊岡市	2007年5月25日			レジ袋削減の取り組みに関する協定
6	姫路市	2007年5月29日	2008年9月1日	●	姫路市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
7	相生市	2007年5月30日	2008年7月20日	●	マイバッグ運動の取り組みに関する協定
8	芦屋市	2007年5月31日			レジ袋削減に向けたマイバッグ運動の取り組みに関する協定
9	西宮市	2007年6月25日	2011年3月24日 (2015年4月1日更新)	●	西宮市レジ袋の削減等に関する協定
10	丹波市	2007年7月10日			レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
11	稲美町	2007年7月12日	2016年6月3日		稲美町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
12	三田市	2007年8月24日	2008年12月15日	●	三田市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
13	加古川市	2008年1月26日	2008年1月26日 (2015年11月17日更新)	●	加古川市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
14	上郡町	2008年3月3日	同左	●	マイバッグ持参運動推進の取り組みに関する協定
15	豊中市(大阪府)	2008年4月13日	2008年4月13日 (2016年2月23日更新)	●	豊中市におけるマイバッグ持参促進及びレジ袋の削減に関する協定
16	たつの市	2008年8月8日	同左	●	レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定
17	尼崎市	2008年10月3日	同左 (2015年2月19日更新)	●	尼崎市におけるレジ袋削減等に関する環境協定
18	加西市	2009年8月24日	同左	●	加西市におけるレジ袋削減等に向けた取り組みに関する協定
19	吹田市(大阪府)	2009年10月2日	2009年10月2日 (2014年4月1日更新)	●	吹田市におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋の削減に関する協定
20	宝塚市	2011年4月13日	2011年4月13日	●	レジ袋の削減等に関する協定
21	播磨町	2016年2月19日	同左	●	播磨町におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定

2018年3月31日現在締結自治体数：18市3町

環境学習／くらしの見直し

【コープの森・社家郷山での森林整備・学習活動】



<http://kumikatsu.kobe.coop/theme5/>

※URLをクリックすると関連情報が表示されます

1. コープの森・社家郷山での活動参加人数

		2013	2014	2015	2016	2017
合計	人	1,120	1,503	1,473	1,529	1,449
組合員・市民	人	778	1,219	1,115	1,270	1,238
職員・スタッフ など	人	342	284	358	259	211

※行政や他企業主催の社家郷山フィールドでの学習・活動への参加人数も含むため、下表の活動人数の合計とは一致しません。

区分	月日	内容	活動人数
組合員向け学習イベント	エコひろば ～自然との接点をつくる 導入プログラム	1月21日(日)	里山の生きもの調査隊!冬鳥を観察しよう
	遊ぼう屋 ～食農、循環、生物多様性を学ぶ ステップアップ・プログラム	5月5日(金・祝)	里山のくらし探検隊
		5月21日(日)	四季の道ハイキングとBBQ
		8月5日(土)	里山昆虫大捜査線&標本づくり
		8月19日(土)	フレッシュ夏野菜でピザ作り!
		10月15日(日)	芋ほりと恵みの水を迎えるハイキング
		11月12日(日)	ぎょぎょ里山で海の幸を野外調理
		12月3日(日)	落ち葉かきと焼き芋体験
ボランティア育成	にしのみや都市型 里山ボランティア フォローアップ研修 ～社家郷山・甲山周辺の保全整備を 支えるボランティア育成	4月8日(土)	火起こし・森林整備方法
		6月17日(土)	学習:里山の整備と生物多様性
		3月24日(土)	活動エリア視察と振り返り・野外炊飯・交流
ボランティア定例活動	都市型里山ボランティアに よる里山の保全・整備活動	4月19日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		5月31日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		7月26日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		8月2日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		9月6日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		10月11日(水)	森林整備体験エリアの拡張整備
		1月31日(水)	森林整備体験エリアのソコゴ大木の除去
		2月21日(水)	森林整備エリアの集積場の移動と常緑樹伐採
	職員ボランティアによる 里山の保全・整備活動	4月16日(日)	コバミツひろば～風の道整備
		5月14日(日)	ほこら周辺ヒサカキ除伐
		6月11日(日)	長谷原、ネコヤナギの池周辺除草
		7月9日(日)	ハイキング道点検、作業計画づくり
		8月6日(日)	いこいのひろば周辺除草
		9月10日(日)	万葉の草原エリア除草
		10月8日(日)	コバミツひろば除伐
		11月26日(日)	ハイキング道沿いの台風による倒木処理
		12月17日(日)	コバミツひろば、ハイキング道の台風被害対応
		1月14日(日)	職員&家族交流イベント「冬の社家GO活動を体験しよう」
		2月18日(日)	ネコヤナギの池周辺除伐
		3月25日(日)	いこいのひろば、向かいの法面整備
その他	調査活動・業者委託の 整備など	5月19日(金)～1月 19日(金)の期間に5回	都市型里山ボランティアによる社家郷山に生息する植物・鳥類・昆虫確認調査
		7月26日(水)～2月 21日(水)の期間に4回	植生追跡調査、ナラ枯れ跡地植生調査など
		8月31日～9月2日、 9月8日	枯マツ・ソコゴなど伐木、土留め
地区や地域で企画した イベント・学習活動		4月23日(日)	レンジャーくらぶイベント「しゃげこう山でハイキング!」
		10月8日(日)	レンジャーくらぶイベント「初秋の里山を歩こう!」
		11月19日(日)	レンジャーくらぶイベント「色づきはじめたしゃげこう山へGO!」
		12月2日(土)	第2地区活動本部イベント 「しゃげこう山で火おこし～焼きマシュマロと焼きイモを作るよ!」
		2月28日(水)	農とくらしをつなぐサポーター養成講座(森林体験)

1. 助成団体および助成総額

		2013	2014	2015	2016	2017
助成団体	団体	20	24	21	19	22
助成総額	千円	2,800	3,000	2,680	2,570	3,000
信託財産残高	千円	375,559	374,227	372,202	370,852	368,842

2. 2017年度の助成団体

■自然環境保護および啓発の実践活動部門・・・20団体（総額245万円） ★：2017年度にはじめて助成を受けた団体。

	団体名	活動内容／助成対象
1	須磨ふるさと生き物サポーター	神戸市須磨区旧市街地地域の在来生物保全と外来種駆除、須磨多聞線高架道路建設予定地に生息するマツムシ保全。 *標本製作、飼育・採集、森林整備用具に活用。
2	宝塚エコネット	宝塚市にある松尾湿原の再生・保全のための間伐・草刈・落ち葉かきを行う。植生・トンボ生息調査や親子保全活動体験の実施。 *講師謝金、パンフ印刷費等に使用。
3	六甲山を活用する会	六甲山の里山再生モデル地域の啓発拠点「まちっ子の森」整備、アセビ伐採による森林再生状況を調査し、効果を検証。 *調査関連用具、講師謝金、教材作成に活用。
4	神戸生物クラブ	幼少期から自然に親しみ、生物多様性への関心がもてるよう、野外活動をしながら動植物の観察方法や標本づくりなどの学習活動を展開。 *ガイドブック、チラシ作成に活用。
5	よこおみち森もりの会	神戸市須磨区横尾地区・・・野路菊育成、低木植栽、雑木林・竹ヤブ整備、友が丘地区・・・竹林道保全、「つつじの森づくり」に向けた植栽。 *整備用具、土の購入などに使用。
6	身近な自然とまちを考える会	川西市黒川地区の休耕田に環境学習のための「トンボ池」を整備。市内小学校の里山体験学習支援を行う。 *オオムラサキ飼育用具・資材、観察・調査備品に活用。
7	多紀連山のクリンソウを守る会	多紀連山に自生するクリンソウ群生地保護のため、自生地のつたや障害樹木の伐採、ならびに生育状況の定点観察を実施。 *遊歩道の整備資材、講師謝金、参考図書購入等に使用。
8	田君川バイカモ保存会	田君川(新温泉町)に群生するバイカモ(梅花藻)の保全に向け、気象被害時の移植、外来種の除草、小学校の自然体験学習受入れを行う。 *除草用資材に使用。
9	兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会	数少ない生息地である八幡高原で、幼虫の食草であるオミナエシの植栽、幼虫の飼育・放蝶及び生息地の草刈り、シカ害対策を行う。 *シカ柵・飼育ゲージ資材、種・苗代に使用。
10	鴨庄オオムラサキ飼育の会	丹波市鴨庄川流域で、耕作放棄田を活用した自然繁殖地「オオムラサキの森」を造成。食草を同じくする他の蝶の自然繁殖もめざす。 *食草苗、森造成資材に活用。
11	兵庫丹波オオムラサキの会	オオムラサキ舞う里山に向け、生息調査継続によるマップの精度向上、学校の環境学習支援、関係団体の連携づくりをすすめる。 *飼育ゲージ、標本作成等に使用。
12	淡路東浦ため池・里海交流保全協議会	漁業資源を豊かにするため、ため池管理者と漁業者が連携したかいぼり(池の清掃)を行うとともに、小学生の環境学習フィールドに。 *かいぼり用具、鯉の稚魚購入費に充当。
13	NPO法人たつの・赤トンボを増やそう会	童謡「赤とんぼ」に歌われるアキアカネの人工飼育、田んぼでの羽化実験、アキアカネ&水生生物調査会、アキアカネ山上調査を行う。 *講師謝金、調査費等に使用。
14	丹波地域のホトケドジョウを守る会	ホトケドジョウ保全を目的にモニタリング調査、堆積土砂除去など生息地の環境整備、及び近隣の生息地を探索。 *検査試薬、生息地補修備品、図書購入に利用。
15	武庫川流域圏ネットワーク	安全・安心で魅力ある武庫川づくりをめざし、河川清掃活動&学習、外来植物駆除、流域で活動する他団体との交流を行う。 *河川清掃用具、講師謝金、パンフ類印刷等に活用。
16	★丹戸区	スキー場造成時の外来種による緑化で減少しているオミナエシ、コオニユリ等の在来種を植栽し、ウスイロヒョウモンモドキの生息地を保全。 *花苗の購入に使用。
17	★特定非営利活動法人棚田LOVER'S	環境モニタリング調査をもとにビオトープをつくり、これにより棚田の機能、自然環境保全の意義を体験的に学ぶ場を提供し、人づくり。 *講師謝金、チラシ印刷費の一部に充当。

	団体名	活動内容／助成対象
18	ブルーアンドグリーンネットワーク	神戸・明石海岸の海浜植物、貝類等の生息調査、及び海岸の生きもの観察会を通じ、自然環境や生物多様性を考える学習を展開。 *マップ作成、調査関係資材等に活用。
19	東お多福山草原保全・再生研究会	六甲山系のススキ草原の再生・維持管理のための地上植物刈取り、その効果検証、生物多様性ガイド養成講座の実施。 *整備用具消耗品・燃料等の一部に充当。
20	★林田にタガメの里をつくる会	タガメとゲンゴロウの繁殖が確認されている佐用町の放棄田で、生息状況調査及び草刈り、外来種駆除による保全活動を実施。 *除草用具・消耗品、調査用備品を購入。

■自然環境保全に向けた実証的調査・研究部門・・・2団体(総額55万円) ★：2017年度にはじめて助成を受けた団体

	団体名	活動内容／助成対象
1	★兵庫県立姫路飾西高等学校自然科学部	環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類指定の水生昆虫「トゲナベバタムシ」は未解明の部分が多く、産卵場所、生活環境、捕食・被食される生き物等の調査を行う。 *調査用具(水中カメラ、溶存酸素計等)、講師謝金、参考図書購入などに活用。
2	★兵庫県立北条高等学校	あびき湿原(加西市)は県内有数の面積をもつ湧水湿原で、約30種類の絶滅危惧種や希少動植物の生息が見込まれている。保全活動の効果を科学的視点から明らかにするとともに、動植物の生息状況を調査し、マップを作成。 *調査用備品(水分計、pHメーター、デジタル温度計等)、講師謝金、図鑑等参考書籍代として活用。

コープこうべ環境保全のあゆみ

	社会の動き	コープこうべの 考え方と体制づくり	くらしの見直し 活動や地域での活動	商品開発・普及、 包材削減の取り組み	リサイクルの 取り組み	事業活動から発生する 環境負荷削減の取り組み
70年代	1971 環境庁設置					
	1972 国連人間環境会議			田舎娘粒状せっけんを開発		
	1975				空ビン回収システムを整備	
	1977			根菜類13品目のトレイ 包装を廃止		
	1978		買い物袋再利用運動を 開始	- 食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更 - 全店舗の野菜・果物売り場でノートレイを実施（一部品目を除く）		
	1979 滋賀県「琵琶湖の富栄養化防止条例」公布					
80年代	1981			- 有リン洗剤の取り扱いを中止 - せっけんキャンペーンを開始 - 卵パックを塩ビからポリエチレンに		
	1982		排水チェック活動を開始			
	1984				全店でボタン電池の回収を開始	
	1986		第1回琵琶湖親子見学会を実施			
	1988			タルク入りトレイ(CTFトレイ)の導入		
	1989 フロン全廃宣言採択(ヘルシンキ会議)	- 総代会で「くらしの見直し」と地球環境を守る取り組みを強める」特別決議を採択 - 環境問題対策会議を設置				食品工場にコジェネシステムと排水処理・有効利用設備を導入
90年代	1990		コープの環境月間 スタート	- 環境統一マーク商品の供給を開始 - 水畜産トレイ包装商品の袋包装への切り替え開始 - フロンガス使用のスプレー式商品の取り扱いを中止	牛乳パックリサイクルが本格的にスタート	- チラシ、包装紙、コピー紙、レシートなどの再生紙化を実施 - 業務用コンピューター用紙などの回収を開始
	1991	環境問題推進室設置	買い物袋再利用運動から買い物袋持参運動に	- フードプラン第1号商品開発 - 環境統一マーク商品にサブマークを導入	- 飲料用アルミ缶、スチール缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始 - クリーニングコーナーのハンガー回収を開始	
	1992 環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催		- 環境測定活動スタート - 公益信託「コープ環境基金」を設立			
	1993 環境基本法成立					生産事業部がタービンで自家発電開始
	1995 容器包装リサイクル法成立	- 環境マネジメント・環境監査システム本格スタート - 組合員の環境委員会発足	買い物袋持参運動拡大(必要な方は1袋5円で購入いただく方式に)		リサイクル推進功労者表彰で「通産大臣賞」を受賞	店舗の生ゴミを回収し堆肥を作る実験スタート
	1996 ISO14001が発効	総代会特別決議として「環境憲章」を採択		- 冷蔵庫からのフロン回収を開始 - 通いコンテナ導入実験を開始	- リサイクル制服を採用 - タルク入りトレイの再生原料を利用した買い物かご導入(～2002)	
	1997 地球温暖化防止京都会議(COP3)開催	環境報告書が環境アクションプラン大賞(環境庁長官賞)受賞		小型焼却炉取り扱い自粛	コープミニ全店で5品目回収開始	芦屋市、尼崎市、伊丹市の店舗の魚箱リサイクル開始
	1998 家電リサイクル法成立	コープ武庫之荘 ISO14001取得	コープグリーンロード運動をスタート	コープラップ(塩化ビニリデン製)取り扱い中止		- コープ土づくりセンター完成(全店舗にてゴミの計測開始) (有)みずほ協同農園発足 - ディーゼル車のガソリン車への切り替え完了 - 地球温暖化防止活動大臣表彰(低公害車部門)
	1999	- 総合品質管理室設置 - 食品工場ISO14001取得		塩素系の食品ラップの取り扱い中止		エコファーム施設の完成

	社会の動き	コープこうべの 考え方と体制づくり	くらしの見直し 活動や地域での活動	商品開発・普及、 包材削減の取り組み	リサイクルの 取り組み	事業活動から発生する 環境負荷削減の取り組み
2000年代	2000	・循環型社会形成推進基本法が成立 ・食品リサイクル法が成立	全事業活動でISO14001取得	・虹っ子「エコチャレンジプログラム」をスタート ・マイかご、無料レンタル袋制度の導入	着物リサイクルショップ「結」スタート	協同購入の商品情報紙「めーむ」の回収をスタート
	2001	環境庁が環境省となる	第一次環境中期計画策定		協同購入で卵パック回収をスタート	・エコファームを本格オープン ・協同購入センター加古川にLPGスタンド設置
	2002		・食品工場ISO14001更新 ・環境推進室設置	・エコファームでマイファーム、エコファームクラブ開始 ・炭素税に対する見解まとめる ・環境学習ボランティア活動開始	食の環境配慮基準策定	・本部エコワーキングスタイル運動開始 ・「第8回全国環境保全型農業推進コンクール」の大賞受賞（みずほ協同農園）
	2003		全事業でのISO14001の更新	・虹っ子エコ&フードチャレンジプログラムスタート ・コープEARTくらぶが2カ所で立ち上がる		協同購入で卵パック回収を休止
	2004		第二次環境中期計画策定	・環境省の「地球環境美化功績賞表彰」受賞 ・電気削減運動を開始		協同購入で卵パック回収を再開
	2005	京都議定書発効	ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合	エコチェックキャンペーン全地域で展開	・（有）みずほ協同農園の大根が「三木市議会議長賞」受賞 ・フードブラン管理規定の策定	協同購入・個人宅配の配送時に使用する内袋回収スタート
	2006		・総代会で「マイバッグ運動の推進とくらし見直しに関する」特別決議採択 ・全事業活動でのISO14001更新	レジ袋のレジ精算スタートに向け、8店舗で先行実施		協同購入・個人宅配の帳票袋回収スタート
	2007		第三次環境中期計画策定	・レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ・容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞受賞	コープスお買い物バッグの開発	
	2008	・京都議定書第一約束期間スタート ・G8環境大臣会合が神戸で開催		・組合員から募集したエコメッセージをG8環境大臣会合に合わせて発信 ・兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結		バイオディーゼル燃料の取り組みを開始
	2009			コープの森・社家郷山の活動方針が「保全活動推進委員会」で決定		省エネ活動の徹底によるCO ₂ 削減の取り組みを、一部の店舗で実験的に開始

	社会の動き	コープこうべの 考え方と体制づくり	くらしの見直し 活動や地域での活動	商品開発・普及、 包材削減の取り組み	リサイクルの 取り組み	事業活動から発生する 環境負荷削減の取り組み
2010年代	2010 生物多様性条約 第10回締約国会 議(COP10)が愛 知で開催			・フードプラン20周年 ・地産地消推進のため コープスに兵庫県産 品をアピールするロゴ “ひょうご発”を導入 ・飼料米を使った「穂の 実りたまご」開発	店舗で卵パック・透明ト レイの回収スタート	・コープ神吉を省エネ のモデル店舗としてリ ニューアルオープン ・コープミニ御影北の店 内照明すべてを実験的 にLED化 ・省エネ活動の徹底によ るCO₂削減の取り組み を全店展開
	2011 東日本大震災発生	創立90周年を迎え、大 阪北生活協同組合と合 併 新生コープこうべス タート。大阪北地区が加 わり、7地区体制になる	電力不足問題に対して夏 と冬に省エネの学習会を 開催			夏場の節電対策を強め、 年間を通じて全事業所で 省エネルギー、CO ₂ 削減 の実施
	2012 再生可能エネル ギーの固定価格買 取制度開始	「共に生きる、未来につ なげる」を基本方針とし て、将来のあるべき コープこうべの姿を模 索する「次代コープこ うべづくり」プロジェクト をスタート				住吉事務所が関西広 域連合エコオフィス大 賞「節電の励行部門賞」 を受賞
	2013		シンポジウム『「コープ の森・社家郷山」の魅力 は高まったか?』開催		アルミ付紙パックの回収 スタート	・コープ武庫之荘が省 エネ型店舗としてリ ニューアルオープン ・鳴尾浜配送センターで 太陽光発電事業を開始
	2014	ISO14001の認証を 返上し、自主運用に切 り替え			・子会社の株式会社 サポートで店頭回収の ペットボトルのプレス作 業開始 ・玉津リサイクルセン ター稼働（宅配の商品 情報紙「めーむ」の圧 縮作業を開始）	雑がみの分別回収を全 店展開
	2015 ・SDGs採択 ・パリ協定採択		・第3回食と農林漁業の 食育優良活動表彰「農 林水産大臣賞(企業部 門)」を受賞 ・「おおさか環境賞」の 準大賞を受賞 ・コープの森・社家郷山 が環境省「生物多様性 保全上重要な里地里山」 (500箇所)に選定 ・みんなの牧♥里プロ ジェクトの取り組み開始		・ペットボトルのキャップ の回収開始 ・宅配返品商品のフードバ ンク関西への提供開始	再生可能エネルギーを 利用する電力供給事業 を開始 (コープこうべの42事業 所に電力供給)
	2016 ・電力小売全面 自由化 ・熊本地震発生				玉津リサイクルセン ターで、宅配の商品配達用 ポリ袋の圧縮作業を開始	再生可能エネルギーを利 用する電力供給事業を拡 大(コープこうべの88事 業所に電力供給)
	2017		店舗でのフードドライブ を初めて実施	エシカル消費の推進をス タート	鳴尾浜リサイクルセン ター稼働	・再生可能エネルギー電 力を含む「コープでん き」を組合員に供給す る電力小売事業を開始 ・協同購入センター伊丹 がスマートKCとして稼 働